

医学部後援会

1. 定時総会について

6月25日（土）15時から順天堂大学有山登記念館講堂において定時総会を開催しました。出席者は37名でした。

藤巻豊副会長の司会により開会、東日本大震災の被災者へ向けての黙祷に続き、後援会として大学へ震災義援金を寄付したことを含めた白岩照男会長の挨拶で開始し、議長に白岩会長、議事録署名人に内田真人氏を選任して議事に入りました。

【議 事】

1) 平成22年度事業報告

2) 平成22年度決算報告および会計監査報告

3) 平成23年度事業計画案

4) 平成23年度予算案

5) 平成23年度新役員選出の件

会則第7条に則り

会 長：白岩照男 監 事：河本武、三留康義

以上の通り選任されました。

6) その他

①会則第5条に則り平成22年度新役員として、巷岡博、小川宜久、塚本謙之、石田稔、伊藤陽一郎、以上5氏が承認されました。

②会則第11条の参与につき、大学関係の役職の方々をお願いすることが承認されました。

③田原副会長の退任に伴い中村義一氏の新副会長就任が承認されました。

④昨年下半年からスタートした収益事業の概要につき、通年で100万円程度が見込めそうで、後援会の財政基盤を確立するうえで大きなウエイトを占めるとと思われるという主旨の説明があり承認されました。

閉会后、来賓の新井一先生（医学部長、脳神経外科学講座教授）による「順天堂大学医学部の現状と展望」と題した講演がありました。

情報交換会は、センチュリータワー19階で和やかに開催されました。

なお、本年は大震災の被災を考慮して、例年のホームカミングデーを来年に延期しました。

2. 「同窓会」「父母会」「後援会」合同懇親会について

8月26日（金）18時から、山の上ホテルにおいて開催され、後援会から古川、中村、平野の3名の副会長が出席いたしました。

後援会の活動状況として、①「地域医療・学術奨励賞」の応募が昨年度はゼロであったので、今年度は同窓会の協力を得て積極的に応募を勧奨したいこと、②三井生命の保険代理店収入が、昨年下半年からスタートしたが、今期の収入状況をみて、有効な活用方法を検討すること、

③東日本大震災の募金活動の結果、97名の方から合計261万3千円の募金があり、被災地（岩手、宮城、福島）在住の29名の方に見舞金として送付したこと、④同窓会：長岡副会長のご尽力を得て「順天堂大学医学部後援会」のホームページが開設されたこと等の報告及び当会を一層充実していくためには、会員の増加が不可欠であり、従来は医学部卒業式で当会の趣旨を説明し入会の勧誘を行ってきたが合同卒業式に変更になり、それができなくなったので、父母会役員の方々にも卒業時の当会入会を強力に勧奨することをお願いいたしました。

同窓会、父母会、大学からも、それぞれ近況報告があり、今後とも、この三会の連携を強化し、大学と一体となって、学生及び卒業生の支援活動を推進していくことを確認し、20時に閉会いたしました。

(医学部後援会 会長 白岩 照男)

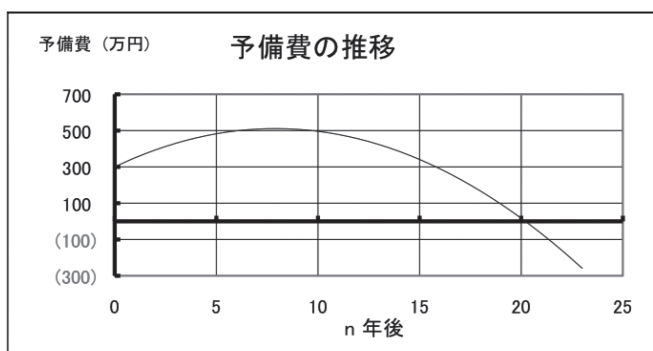
スポーツ健康科学部後援会【桜順会】

桜順会の課題

桜順会は、平成10年8月に順天堂大学スポーツ健康科学部後援会として創立され、13年経過しました。関係者との連絡を密にし、学生活動や就職活動への支援等を行うとともに会員相互の親睦を図ることを目的に活動し、現在に至っています。

ところで、平成23年度の総会（第13回定例総会：平成23年6月13日）において、会員様から「会員定年制導入」を動議いただきました。この動議内容は、役員会で可否を議論・検討したのち、次期定例総会で議案として会員の皆様にご審議いただくことといたしました。この動議は、終身会員費二万円逐年々会員が増加し、さらに会員が高齢化していくうえで、会の運営の行き詰まりを不安に思われ、気にかけてくださったものです。桜順会創設の目的を継承していくうえで、会員の皆様にも真摯に受けとめていただかねばならないものですので、役員会が責任をもって「会員定年制導入」の可否について方向性を示させていただきます。

ここ数年来、会計上での会の行き詰まりを懸念する声がありましたので、現役員会で試算してみましたところ、毎年の繰越金を積み立てた予備費を7～8年後から運営費に充当することとなります。現在の入会金で毎年の会計を賄う運営には限りがあるということです。当然、活動の領域を広げれば会計の破たん時期が早まるのです。



今年度は、「会員定年制導入の可否」「活動領域」について、会員皆様と連絡を密にしてまとめてまいります。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(スポーツ健康科学部後援会【桜順会】 会長 小森 常誉)